

# 平成30年度 学校評価 総括評価表

## 徳島県立徳島聴覚支援学校

### 徳島聴覚支援学校の経営方針

#### (1) 徳島県教育の基本方針

とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成

#### (2) 本校の教育理念

聴覚支援学校と視覚支援学校が、「つながる」を合い言葉として連携・協働することにより、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を推進します。

##### ① 学びがにつながる

聴覚支援学校と視覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育みます。

##### ② 未来につながる

幼稚部から小学部，中学部，高等部，高等部専攻科における，専門性の高い一貫した保育・教育により，社会に主体的に参加し，自立をめざす人を育てます。

##### ③ 地域とつながる

特別支援教育センターとして，聴覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに，障がいのある方の交流拠点として，生涯をとおした活動を支援します。また，防災避難施設として地域の方々の安全を守ります。

##### ④ 心がつながる

思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため，学校と保護者，地域，関係機関・団体等が連携し，聴覚障がいに関する理解の推進に努めます。

#### (3) 本年度の重点目標

① 聴覚障がい教育に関する研修と公開授業・研究授業により，授業力を始めとする教職員の専門性の向上を図ります。

② 医療機関と連携した聴覚管理と，生活における聴覚活用の充実を図ります。

③ 支援機器等教材を積極的に活用することにより，指導方法の充実を図ります。

④ 特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し，聴覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。

⑤ 幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに，全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。

⑥ 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。

⑦ 聴覚支援学校と視覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が，安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。

⑧ 視覚支援学校との共同学習や行事への参加等により，ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを充実します。

⑨ 教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして，寄宿舎における生活指導の充実を図ります。

⑩ 防災避難施設として，地域の人々と連携した防災訓練等を行います。

⑪ 聴覚障がいのある人の生涯にわたる活動を支援します。

⑫ 奉仕活動や環境・エネルギー活動，啓発活動をとおして，地域とのつながりを深めるとともに，聴覚障がいに対する理解の推進を図ります。

【幼稚部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>【②未来につながる】</p> <p>幼稚部から小学部，中学部，高等部，高等部専攻科における専門性の高い一貫した保育・教育を行う必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>聴覚障がい教育に関する研修と公開授業・研究授業により，授業力を初めとする教職員の専門性の向上を図ります。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>幼稚部</p>	<p>活動計画</p> <p>①一人1回以上自分の保育のビデオ撮影を行う。それを元に幼稚部教員で保育改善のための研修を行う。</p> <p>②幼稚園教育要領の読み合わせを行い，具体的な環境構成と教職員の指導のあり方について話し合う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①遊びの時間，クラス活動，おかえり等，のビデオ撮影を行い，月1回の学部研修時に視聴，意見交換を行った。2月中に対象者全員終了予定。</p> <p>②学部研修の時間に，第1章第2節「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について1項目ずつ読み合わせを行い，現状と改善点について話し合った。</p>	<p>ビデオ研修は有効であるので今後も続けてほしい。</p> <p>就学前の子どもの言語の力が落ちてきている。語彙も減っている。1日4時間以上テレビがついている家庭の子どもは1歳半で言葉の遅れがあるというデータもある。生活リズムを整えたり，睡眠覚醒リズムが崩れるのを防ぐために保護者を巻き込んで対応をしていくことが必要と感じている。</p>	<p>今年度の取組によって，教員自身が自分の行動について，客観的に見る視点がうまれた。今年度改善点として挙げたことは，聴覚障がい教育，幼稚園教育に関する基本的な部分が多かった。今後も定期的に保育のビデオ撮影を実施し，授業力の向上を図りたい。</p> <p>幼稚部教育要領の読み合わせについても，継続して行いたい。</p>
		<p>評価指標</p> <p>①一人1回以上，保育場面をビデオに録りそれを元に保育研究を行う。</p> <p>②1ヶ月に1回，幼稚園教育要領の読み合わせを行い，指導方法，支援方法について話し合うことができる。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B (対象者全員が終了した時点でAとする)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>保育中の教員の言動を客観的に見ることで，改善点が明らかになった。話し合いによって，複数の支援の方法や適切な言葉かけが提示され，保育実践の改善に繋げることができた。</p> <p>読み合わせた内容を幼稚部での活動や教員が行っていること等に照らし合わせて具体的に話すことで，教員の行動や言葉かけの意味づけがなされた。</p>		

**【小学部】**

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【①学びがつながる】</p> <p>聴覚支援学校と視覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進する必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>視覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを充実します。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>[小学部]</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①自分たちでできる準備や役割を考えて主体的に活動できるよう配慮して、視覚支援学校児童との交流を実施する。</p> <p>②交流給食を定期的実施する。</p> <p>③点字ブロック啓発活動の準備を協働して行えるよう視覚支援学校と連携する。 ・配布用ティッシュ準備（10月，3月）</p> <p>④教員が視覚支援学校の授業を参観して視覚支援教育や児童一人一人の理解を深め、交流に活かす。 ・共通する関心のある活動を見つける。 ・グループ編成の参考になるような事象を見つける。</p> <p><b>評価指標</b></p> <p>①両校小学部の対面式となかよし交流会を年間各1回実施する。</p> <p>②交流給食を年間6回以上実施する。</p> <p>③80%以上の児童が視覚支援学校の友達との関わり方を考えて一緒に準備作業が行える。</p> <p>④教員がオープンスクール期間に視覚支援学校の授業を1回以上参観する。今後の交流に生かしたいことを一人1つ以上出して学部でまとめる。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①児童会が中心となって事前にチーム表や得点表を準備した。当日は会場準備や片付けを積極的に行った。</p> <p>②1学期に1回，2学期に3回，3学期に1回実施した。両校の児童が和やかな雰囲気給食を食べることができた。</p> <p>③11月と2月に5・6年の児童が配付用ティッシュ作りを視覚支援学校の児童と一緒にいった。</p> <p>④11月のオープンスクールに授業参観した。視覚支援の合理的配慮や一人一人に応じた支援の方法を具体的に学んだ。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>計画した交流活動を実施し、交流を重ねることで、共に活動する楽しさや喜びを感じ、積極的に関わろうとする児童が増えている。高学年の児童は、見えにくさに対してどのように配慮したらよいかを考えて関わろうとすることができるようになっている。教員も交流活動や授業参観を通して視覚支援学校の合理的配慮や児童一人一人の好きなことや得意なことを発見することができ、今後の交流に生かせる機会となった。</p>	<p>準備しすぎたり，児童生徒の意思の確認をせずに与えてしまうなど，特別支援に携わる者が陥りがちな状態にならないように，子ども同士が対話し，自分たちがしたいことを決めていくことが主体性を育てていくという観点から大切だと感じている。</p>	<p>今年度のなかよし交流は視覚支援学校の体育で行っている活動を行い，両校の児童には分かりやすい活動であった。活動の中でもう少し児童が役割を担えそうな部分もあった。児童がより主体的に活動できるような活動計画を検討したい。今後も定期的な交流を継続しながら，児童がより主体的に関わり，互いの良さを見つけて認め合えるように活動を深めていきたい。</p>

【中学部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>【④心がつながる】</p> <p>思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、聴覚障がいに関する理解を推進する必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、聴覚障がいに対する理解の推進を図ります。(12)</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>[中学部]</p>	<p>活動計画</p> <p>①地域の方へオープンスクールや運動会、文化祭等の行事についてビラを配布する活動を行う。</p> <p>・文化祭のビラを9月中旬に配る。</p> <p>②学校周辺清掃活動を充実するとともに、地域の方との挨拶を主とした交流を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①9月28日にオープンスクール並びに文化祭の案内ビラを実施した。</p> <p>②4月26日、6月29日、10月17日、11月2日の合計4回実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>2学期に実施した研究会では、地域への啓発活動をテーマとした。そのため、どの活動も生徒が納得しながら進められた。しかし、行事等の日程がタイトになり、当初想定した評価指標どおりに清掃活動ができなかった。ただ、生徒の活動に触れてくださった近所の方は、大変好意的に見守ったり応援したりしてくださった。</p>	<p>総合的な学習の時間等で、「地域啓発」をテーマに取り組んだため、生徒の意識づけと並行して活動を進めることができた。地域住民と積極的に対話をしながら活動できたのも、このためだと思われる。</p> <p>ただ、活動回数については、目標設定が高いと負担が大きくなり、生徒の学校生活に影響が及ぶことも考えられる。無理のないように設定しようと考えている。</p> <p>次年度も、生徒の意識を大切にしながら活動できるように計画したい。</p>
		<p>評価指標</p> <p>①学校のオープン行事について、地域の方々へ案内ビラを1回以上配布する。</p> <p>②年間5回以上、学校周辺の清掃活動を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①【達成】中学部が主体となって、学校周辺の住居に案内ビラを配布した。お会いした地域の方には、説明をしながら手渡しすることができた。</p> <p>②【継続中】研究会等が立て続き、2学期にもう1回実施するつもりであったが、日程の都合で3学期に延期している。</p>		

**【高等部】**

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【①学びがつながる】</p> <p>聴覚支援学校と視覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進する必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>視覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを充実します。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>[高等部]</p>	<p>活動計画</p> <p>①高等部生徒が視覚支援学校高等部職業科の授業を参観し、視覚障がいについて理解を深めることができるよう機会を設定する。</p> <p>②「点字ブロックの日啓発活動」を協働することができるよう設定する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①本校の高等部2年生と3年生が、12月14日にあんまの実習授業を見学した。</p> <p>②2月15日に「点字ブロック」について学習するとともに、配布用ティッシュの準備を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(点字ブロック啓発活動が達成できるとAとしたい)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>視覚支援学校の実習授業を見学したことは生徒にとって新鮮であった。見えにくい中でどのように手技を身につけていくのか、自分の授業と比較しながら指示の分かりやすさや難しさを評価していた。見えにくさの状態と、視覚障がい者の職業や生活に少しでも思いが進んでほしい。</p>	<p>自立したり社会に出た時に力が発揮できるよう、高等部卒業までに自分の生活を把握したり、どういう力を身につける必要があるのかを考えさせる機会を与えてほしい。</p>	<p>毎年5月に視覚支援学校生の弁論大会校内予選に参加し、校外清掃活動及び「点字ブロックの日啓発活動」の協働作業を行ってきた。</p> <p>本年度は、職業科の授業参観を計画したところ、生徒は熱心に授業を見学し、左記の「所見」欄のような意見が得られた。</p> <p>両校の相互理解について、年間を通じて良いサイクルが形成されていると感じる。1年生は、本校の学校生活に初めて触れる生徒もいるため、次年度以降は2年生が見学させていただくように計画し、充実を図っていきたい。</p>
		<p>評価指標</p> <p>①年間1回以上、職業科の授業を参観し、視覚障がいに関する理解を深めるとともに、職業や生活について学習する。</p> <p>②当日のティッシュ配布及びそのことに向けた計画で2回以上の協働を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①【達成】両校とも高等部の時間割調整が難しいため、見学は1回とした。また、本年度は2年生、3年生の見学機会とした。</p> <p>②【継続中】2月15日に啓発活動の準備、3月15日に徳島駅前でティッシュを配布しながら啓発活動を行う。2回の協働を計画している。</p>			

## 【涉外・安全課】

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	今後の改善方策	
<p>【③地域とつながる】</p> <p>特別支援教育センターとして、聴覚障がい等のある乳児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として生涯をおとした活動を支援する必要がある。また防災避難施設としての機能を果たす必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>[涉外・安全課]</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①両校の幼児・児童生徒と教員、地域の方々が一緒に活動できる防災体験学習を実施するために、地域や視覚支援学校の担当者と協力して計画する。</p> <p>②防災体験学習の内容は、災害用グッズ体験、防災グッズ作りなどを準備する。参加者が活動内容の意義を理解し、実践的な判断力や行動力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールの部屋作り</li> <li>・カレーの皿スプーンを牛乳パックで作る。</li> <li>・天ぷら火災、起震車</li> </ul> <p><b>評価指標</b></p> <p>①防災体験学習を企画・運営するにあたり、地域の方が参加した打ち合わせ会を2回以上、視覚支援学校の担当者との打ち合わせ会を2回以上開催し、意見情報交換を行う。</p> <p>②地域の方々との共同学習を通して4種類以上の体験ができた幼児・児童生徒が80%以上になる。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①地域の方との話し合いも5年目となり、互いに取り組みたい活動内容を提案し合うことができた。また、視覚支援学校と合同課会を開催し、ハイゼックス袋を用いた蒸しパン作りを事前練習することもできた。</p> <p>②ハイゼックス袋を用いた蒸しパン作り、牛乳パックを用いた食具(皿、スプーン)作り、段ボールベッドや段ボールトイレ体験、起震車体験、天ぷら油火災見学の5つの体験活動を実施できた。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①【達成】地域の方との打ち合わせ会を3月28日、5月30日、7月5日に実施できた。4月4日、7月27日に視覚支援学校の課員全員と打ち合わせ会を行い、担当者同士の話し合いは毎週1回持つことができた。</p> <p>②【達成】両校の幼児・児童生徒18名、地域の方31名、両校教員24名の合計73名が7班に分かれて、班ごとに協力しあい、5種類全ての体験活動を行うことができた。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>今年度もまた、八万民生児童委員協議会、八万地区自主防災会連絡協議会、日本赤十字八万地区奉仕団の方々に支えられ、防災センターや徳島東消防署の方に指導を仰ぎ、総勢約130名で実施することができた。</p> <p>夏期休業中の実施に至るまでの両校涉外・安全課課員の綿密な打ち合わせのもと、熱中症対策も実施しながら実施した結果、幼児・児童生徒と地域の方のアンケートから100%参加して良かったと回答を得た。</p>	<p>地域の災害時に城南高等学校(隣接する高等学校)の生徒と一緒に活動することを考えてみてはどうか。若者が減っていく中で、貴重な若者同士が連携をとって動くと思力になると思う。</p> <p>防災拠点としての設備等の見直しも必要と思う。</p>	<p>新校舎に移転し5年連続、地域と連携した合同防災学習を実施することができた。</p> <p>今回も地域の方から、蒸しパン作りのプランや段ボールベッドを仕切る間仕切り(パーテーション)の貸し出し、カレーの炊き出しを受け、子どもたちから前年度アンケートよりしてみたい活動として、天ぷら油火災見学や、防災グッズ作りを取り入れることができた。</p> <p>そこで、毎年繰り返し体験する必要のある活動内容と、新しく取り入れる活動をバランス良く組み込むことが大切であると感ずる。</p> <p>本校が、より防災避難施設としての機能を果たしていくためにも、災害についての意識を高め、地域とつながり、障がいについての理解を深め、災害に対して実践的な判断力や行動力を身につける防災学習を地域の方と共に実施していきたい。</p>

## 【生徒活動課】

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【④心がつながる】 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、聴覚障がいに関する理解を推進する必要がある。</p>	<p>(全校レベル) 幼児・児童生徒一人一人の権利を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。</p> <p>(下位組織レベル) [生徒活動課]</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①いじめのない学校作りに向け、外部講師による教職員研修会を実施する。 ・いじめ防止等研修会 12 / 4</p> <p>②スマホ・ケータイによるネットいじめ等のトラブルを防止するための講演会を実施する。 ・e-ネットキャラバン 6 / 1 ・NTT docomo 11 / 16</p> <p>③いじめ防止に関する校内啓発活動を行う。</p> <p>④毎学期末に児童生徒対象に生活アンケートを行う。</p> <p><b>評価指標</b></p> <p>①いじめに関する外部講師による教職員研修会を年1回実施する。</p> <p>②スマートフォン、携帯電話等に関する講演会を年間1回以上実施する。</p> <p>③いじめ防止に関する児童生徒のポスターと標語を掲示する。</p> <p>④アンケートが毎学期ごとに実施でき、結果については、各学部で共通理解できる。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①鳴門教育大学の葛西真記子先生を招き、「LGBTの生徒への生徒指導やいじめ発生時の対応について」という演題にて視聴合同研修を行った。</p> <p>②6月にe-ネットキャラバン、1月にIPA情報処理推進機構の「スマホやインターネットに関する指導・講演会」を中・高の生徒に行った。</p> <p>③児童生徒によるいじめ防止に関する啓発作品として、ポスターは7月と12月に、標語は9月に校内掲示を行った。</p> <p>④毎学期末に児童生徒対象に生活アンケートを実施し、生活状況の調査を行った。</p>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p>A</p> <p>----- (所見)</p> <p>いじめのないよりよい学校作りを目指し、全学部・寄宿舎と連携を図りながら各学部で児童生徒の情報交換を密に行った。</p> <p>また、いじめ防止に関するポスターや標語の掲示の他、講演会を実施し、児童生徒だけではなく保護者にも啓発活動を行った。</p> <p>スマホ・ケータイ教室については小学部の実施ができなかった。いろいろな機関の安全教室を考えていく必要がある。</p>	<p>情報モラルについて、教員と保護者と生徒の危機感に意識の差がある。同じ研修会を3者で聞き、情報を共有する、考えを共有することが大切と思う。</p> <p>家庭の協力がなくては進めていけない課題である。今後も保護者との連携を図ってほしい。</p>	<p>児童生徒間の日々のコミュニケーションにおいては、些細な行き違いによりトラブルになることがある。このことが、深刻な問題に発展しないよう、引き続き学部を中心とした体制の中で、細やかな見守り・気配りを行っていききたい。</p> <p>スマートフォン・携帯電話については、SNSでのやりとりの注意点や危険性などを踏まえた有効な使用方法等を伝えたが今後も継続指導していききたい。</p> <p>また、児童生徒だけでなく保護者に対しても、家庭でのルール作りや見守り体勢について情報を発信し、啓発に取り組んでいきたい。</p>

## 【人権キャリア教育課】

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【②未来につながる】</p> <p>幼稚部から小学部， 中学部，高等部，高等部専攻科における専門性の高い一貫した保育・教育を行う必要がある。</p>	<p>(全校レベル) 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。</p> <p>(下位組織レベル) [人権キャリア教育課]</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①キャリア教育に関する生徒対象講演会等を開催する。(6月)</p> <p>②人権に関する教職員対象研修会等を開催する。(5月)</p> <p>③社会科見学・職場見学・就業体験などを実施し，職業観を育成する。</p> <p>④中・高等部で進路実現に向け，補習を計画・実施する。</p> <p>⑤人権に関する生徒対象講演会・映画会等を開催する。(12月)(7月)</p> <p><b>評価指標</b></p> <p>①キャリア教育に関する講演会等を年間1回以上開催し，アンケートにおいて80%以上の満足度を得る。</p> <p>②人権に関する職員研修会等を年間2回以上開催し，アンケートにおいて80%以上の満足度を得る。</p> <p>③社会科見学・職場見学・就業体験などを年間3回以上実施し，職業観を育成する。</p> <p>④計画した補習の80%以上を実施する。</p> <p>⑤人権に関する生徒対象講演会等を1回以上実施し，アンケートにおいて80%以上の満足度を得る。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①中・高等部生徒，保護者対象に「筑波技術大学ミニ説明会・体験授業」を開催した。(6月)</p> <p>②教職員対象研修会(5月・8月)生徒対象講演会(12月)，保護者対象講演会(8月)を視覚支援学校と合同で実施した。</p> <p>③社会科見学・職場見学・就業体験など，1・2学期実施予定分は全て実施した。</p> <p>④夏期補習・放課後補習を計画し，実施した。</p> <p>⑤人権映画会「彼らが本気で編むときは，」(7月)及び人権講演会「性・いのち・じんけんのはなし」(12月)を行い，アンケートを実施した。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>評価指標</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>-----</p> <p>キャリア教育については，生徒の進路希望に応じて講演会や職場見学・就業体験などを行うことができた。また，補習ではより個々の進路に対応した指導を行い，進路実現につなげることができた。</p> <p>人権教育では2年間の指定研究の成果として，合理的配慮についての理解が深まった。視覚支援学校とも積極的に交流を行い，障がいの相互理解や専門性・人権意識の向上につながった。</p>	<p>社会的な意識，自分も役に立ちたい意識をもってほしい。外から求められている，役に立っているという実感はキャリア教育としても重要だと思う。</p>	<p>キャリア教育では，学部ごとに社会科見学・職場見学・就業体験を行っている。特に中高では生徒の希望に合った事業所や進路につながる体験場所を提供できるよう心掛けているものの，毎年似たような事業所に集中している現状が見られる。次年度は更に生徒のニーズに対応できるように，外部機関等と連携し，企業開拓に積極的に取り組みたい。</p> <p>人権教育に関しては，「障がい者」等身近な人権問題に重点をおいて行われているので，同和問題をはじめとする個別の人権課題について学ぶ機会を設定していきたい。また，社会における合理的配慮の拡充のために，地域社会への啓発についても継続して行いたい。</p>



**【サポート課】**

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【③地域とつながる】</p> <p>特別支援教育センターとして、聴覚障がい等のある乳児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として生涯をおとした活動を支援する必要がある。また防災避難施設としての機能を果たす必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、聴覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>[サポート課]</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①一側性難聴の子ども達の交流会を開く。</p> <p>②「聴覚障がい児の理解のために」という本校で作成した冊子の使い方の研修を各学部で行う。</p> <p>③特別支援教育巡回相談員による教育相談を充実させる。</p> <p><b>評価指標</b></p> <p>①夏季休業中に一側性難聴の子ども達の交流会を1回開く。</p> <p>②「聴覚障がい児の理解のために」の冊子の研修会を各学部で1回以上行う。</p> <p>③ 難聴学級のある小・中学校および本校通級指導教室で指導を受けている児童生徒の在籍校のうち、80%以上の小・中学校に巡回相談活動を行う。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①一側性難聴の子ども達の交流会を開く。</p> <p>②「聴覚障がい児の理解のために」という本校で作成した冊子の使い方の研修を各学部で行う。</p> <p>③特別支援教育巡回相談員による教育相談を充実させる。</p> <p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①【達成】夏季休業中の8月に一側性難聴の子ども達の交流会を開くことができた。</p> <p>②【達成】「聴覚障がい児の理解のために」の冊子の研修会を2学期に各学部において行うことができた。</p> <p>③【達成】難聴学級のある小・中学校および本校通級指導教室で指導を受けている児童生徒の在籍校のうち、80%以上の小・中学校において巡回相談員による教育相談を行うことができた。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>一側性難聴の子ども達の交流会には9組の親子が参加し、保護者の研修会・情報交換会と子ども達の交流会を行った。「聴覚障がい児の理解のために」の冊子の各学部研修では各担任に子ども達のオーゾグラムを配布し、子どもの実態を把握しながら研修を行った。特別支援教育巡回相談員による教育相談では、12月末までに121件、延べ162人に対して支援を行うことができた。</p>	<p>啓発用の冊子「聴覚障がい児の理解のために」を活用して行ってほしい。</p> <p>特別支援教育センターとしての機能を発揮し、一側性難聴の子ども達の交流会を行うことができた。特別支援教育巡回相談員による教育相談では、昨年度に続き幅広く支援を行うことができた。また、聴覚障がいの啓発に利用できる冊子の研修会を校内で行い、冊子を本校児童の交流先などで使用することができた。次年度も引き続き特別支援教育センターとしての機能を発揮できるように、地域の学校で支援を行うとともに各関係機関とも連携し、支援を行っていきたい。</p>

【研究情報課】

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【①学びがつながる】</p> <p>聴覚支援学校と視覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進する必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>聴覚障がい教育に関する研修と公開授業・研究授業により、授業力を始めとする教職員の専門性の向上を図ります。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>[研究・情報課]</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>① 幼・小・中・高等部の教員を対象に、「授業における合理的配慮についての自己評価」を実施する。(H29年12月, H30年4月, H30年7月)</p> <p>② 各学部でテーマを設定し、学部研修を実施する(年間)。</p> <p>③ 新赴任者研修及び各学部で手話研修を実施し、すべての教員が日常会話のできる手話力を身につける。</p> <p>④ 各学部で人権教育公開授業の指導案検討会を実施する。</p> <p>⑤ 研究授業を2回以上実施する。</p> <p>⑥ 公開授業期間において一人1時間以上の授業参観を行い、自己の保育・授業に活かす(11月)。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① 「授業における合理的配慮についての自己評価」の1回目を新赴任者には4月に実施し、2回目は7月に幼・小・中・高等部のすべての教員に実施した。</p> <p>② 年間を通じて、各学部のニーズに沿った研修を実施した。</p> <p>③ 新赴任者研修では5月までに5回手話研修を実施した。その後各学部で継続して実施した。</p> <p>④ 各学部で人権教育公開授業の指導案検討会を実施した。</p> <p>⑤ 研究授業を4回実施した。</p> <p>⑥ オープンスクール期間に「公開保育・授業週間」を実施し、教員間で授業参観を行い、自己の保育・授業に活かした。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)「授業における合理的配慮についての自己評価」の結果より、学校全体に合理的配慮を浸透させることができた。と考える。</p> <p>学部研修は、各学部の実情に合わせて実施日を調整し、研修を深めることができた。</p> <p>教員の手話の習得のために、サポート課の協力を得てDVDを制作し、有効に活用してもらうことができた。ただ、目標単語数が200語と多かったため、習得できなかった教員もいるが、日常使用する頻度の高い単語を精選したので、引き続き習得してもらうことを目指している。</p> <p>「公開保育・授業週間」を実施することにより、参観したい授業を積極的に参観してもらうことができた。</p>	<p>合理的配慮として、UDトークの使用についての質問があった。(使用状況などを説明)</p> <p>支援学校で先生方一人一人は頑張っているが蓄積されていない。学校のカラーとして引き継いでいく必要がある。経験が蓄積され伝統として残っていくので、指導方法をレベルアップするためにも共通のベースを作ってステップアップする必要がある。</p>	<p>手話研修については、DVDによる研修が効果的であったので、次年度も追加版のDVDを作成し活用したい。</p> <p>「公開保育・授業週間」では、参観シートを受け取った教員には、自分の授業を評価してもらう機会となったが、その内容を他の教員と共有しあうことができていない。すべての教員の授業力向上のために、授業実践を相互に検討し合う機会を設けたい。また、授業改善を効果的に進めるための方法及び、具体的な指導方法に関しては、外部専門家を招聘して専門的な助言を受けることについても検討したい。</p> <p>授業における合理的配慮については、今年度すべての教員に意識の向上が見られたが、この状態を維持し、さらに意識を高めるために、自己評価の機会を継続して持ちたい。</p>
		<p><b>評価指標</b></p> <p>① 7月の「授業における合理的配慮についての自己評価」において、すべての項目が4段階の3以上の教員が80%以上になる。</p> <p>② 学部研修を各学部で8回以上実施する。</p> <p>③ すべての教員が本校で作成した「日常会話に使用する基本の手話」の内容を7割以上習得する。</p> <p>④ 90%以上の教員が公開授業の指導案検討会に1回以上参加する。</p> <p>⑤ 90%以上の教員が研究授業の授業研究会に1回以上参加する。</p> <p>⑥ すべての教員が1時間以上平常授業の授業参観を行い、参観シートを授業者に提出する。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>① (達成) 7月の「授業における合理的配慮についての自己評価」において、すべての項目が4段階の3以上の教員が92%であった。</p> <p>② (達成) 幼・小・中・高、それぞれの学部で学部研修を8回以上実施した。</p> <p>③ (未達成) 「日常会話に使用する基本の手話」200語を7割以上習得した教員(幼・小・中・高・寄宿舍)は95%ですべての教員が習得することはできなかった。</p> <p>④ (達成) すべての教員が人権教育公開授業の指導案検討会に1回以上参加した。</p> <p>⑤ (達成) 90%以上の教員が研究授業の授業研究会に1回以上参加した。</p> <p>⑥ (未達成) 99%の教員が授業参観を行い、参観時数の全体の平均は1.5時間であった。実施後アンケートでは、全員が「自分の授業や幼児・児童生徒との関わりに活かせる」と回答した。</p>			

**【寄宿舍】**

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【①学びがつながる】</p> <p>聴覚支援学校と視覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進する必要がある。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>聴覚支援学校と視覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルール作りを推進します。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>〔寄宿舍〕</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①自治会活動を通じて、舎生一人一人が視覚支援学校舎生の障がいに配慮した、生活を送ることができるよう環境を整える。</p> <p>②合同自治会において、事前に自治会役員会を開くことで、舎生が主体的に行事に関わり、会の運営を円滑に行うことができるようにする。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①新入舎生歓迎会・スポーツ大会・茶話会及び、避難訓練を各学期1回ずつ、誕生会を年間5回、計年間11回の合同行事を実施した。また、毎月1回の聴覚集会にて視覚聴覚両舎生と一緒に生活する上での注意点などを話し合った。視覚舎生への理解について1学期末と2学期末にアンケートを実施し、児童生徒の意識変化を調査した。</p> <p>②毎月1回、自治会前に役員会を開いた。それぞれの立場や相手の障がいに配慮した上で意見を出し合い、自治会の運営に繋げた。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>「生活振り返りアンケート」の実施により、視覚障がいについて意識付けができ、「右側通行を心掛ける」や「積極的に声を掛ける」「聞こえる声で挨拶する」といったことに気付くことができるようになった。少しずつではあったが、一人一人のできる範囲で相手を気遣うことが増えてきた。今後も相手のことを考え行動する気持ちを育てる活動を実施していきたい。</p>	<p>一人で生活した時に何が困るのか、自分の生活を把握し、何ができて何ができないのか、どういう力が必要なのかを考える機会があると良い。</p>	<p>自治会や行事の前に、役員会や係会を開くことで、自分たちの意見を出し合い、全員が担当を受け持ち、行事を進めることができた。今後も行事だけでなく、生活一つ一つの場面でも協力し、互いに思いやる気持ちが育つよう指導継続していきたい。</p> <p>毎月の聴覚集会で指導を行っていることが、日々の生活に活かされつつある。現在は、職員主導で行われているため、今後は舎生同士が話し合いを行い、よりよい寄宿舍生活の環境を整えていけるよう支援していきたい。</p>
		<p><b>評価指標</b></p> <p>①学期ごとにアンケートを実施し、舎生が視覚障害について理解や配慮ができたかを確認する。2学期末に6名以上が「理解できた」「配慮できた」の評価以上を達成することができる。</p> <p>②月ごとの自治会の前に中・高等部の舎生が主体となって自治会役員会を行い、会の内容や舎生からの要望をまとめる。アンケートを実施し、2学期末に6名以上が「できた」の評価以上を達成することができる。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①「生活振り返りアンケート」を実施。1学期末のアンケートでは障がいの実態を記入するだけであったが、一年を通して視覚舎生と活動する中で、「積極的に声をかける」など、自らの行動を振り返る内容に変化した。「視覚舎生に対して食事のマナーに気をつける事ができたか？」という問いに対して、6名以上が「できた」「少しできた」と回答し、おおむね達成できた。視覚舎生から要望がでていた食事のマナーについても児童生徒一人一人が気をつけようとする気持ちが芽生えたように感じる。</p> <p>②「生活振り返りアンケート」を実施。「視覚舎生からの願いや気をつけて欲しい事を理解できましたか？」に対して6名以上が「とても理解できた」「理解できた」と回答して目標などを達成できた。「ゆっくり大きな声で話す」や「席に案内する」等の心遣いができる児童生徒も出てきた。</p>			

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった